



桜川保育園 だより

桜川保育園

〒300-0048 土浦市田中三丁目4番5号

【TEL】029-821-8341 【FAX】029-823-0390

【E-mail】sakuragawa@showfukai.com

【URL】http://showfukai.com/

【発行責任者】施設長 宇都野 和司

※掲載写真は、保護者の同意を得ています。



7月1日、曇り空の中で開園後初めてのプール開きを行い、塩や酒、榊でお清めをし、「事故やケガをすることがなく、無事にプールを楽しめますように」とみんなで手を合わせて安全を祈願しました。

今年は例年になく「梅雨明け」が遅かったため、7月中はプール活動が思うようにできず、子どもたちは少し残念そうでしたが、8月に入ると焼けるような日差しが照り付け、本格的な夏の到来とともに、プール活動を思う存分満喫していました。

保育園でのプール活動のねらいは、「水の感触に慣れ、水遊びを楽しむ」、「水の性質に興味を持ち、さまざまな遊び方で楽しむ」、「水に触れることを通して夏の遊びを体験する」、「プールに入る前は体操をする、終わった後は水分補給をするなど、プールを通して健康や安全について学ぶ」などがあります。保育者の指導によって、そのねらいを子どもたちに十分に伝えることができました。

新保育園での最初のプール活動は、子どもたちにとっても、ひと夏の楽しい思い出になったことでしょう。

プールで水遊びを満喫!!

クラス紹介



ゆめ組 (0歳児)
担任 古木 雅代

0歳児クラス「ゆめ組」は、男児5人、女児2人を3人の保育士で担当しています。0歳児保育では、子どもの発育発達状態の道筋を理解して、一人ひとりの発達をしっかりと把握しながら、その月齢に必要な経験できるように働きかけ、成長の仲立ちができるような心がけています。

首が座り、寝返りやお座り、ハイハイやつかまり立ち、一人歩きができるようになるなど、運動機能の発達は目覚ましいものがあります。日々、子どもの発達に配慮したスケジュールを組み、四季を感じながら桜川沿いの土手を散歩したり、広い園庭で遊んだり、様々な経験ができる工夫をしながらゆったりと過ごしています。

また、子どもとの関わりでは、愛着関係を築くために、何よりもスキンシップを大

切にしています。おんぶや抱っこで肌と肌を触れ、快・不快を表現している時にすぐに応えてあげることで、愛着関係の土台を築いていけるよう努力し、子どもの気持ちに寄り添いながら、安心して楽しく過ごせる環境を整えていきたいと思っています。



はな組 (1歳児)
担任 長峰 幸子

1歳児クラスの「はな組」は、3人の保育士で男児8人、女児7人を担当しています。今では保育園生活にも慣れ、毎日元気な声飛び交い笑顔で満ち溢れています。

歌ったり踊ったり音楽が大好きな子どもたちから「アパンマン体操やる」「もつと」とリクエストがあり、みんなで一緒に踊って身体を動かしています。最近はいろいろなことに興味を示し、探索活動が活発になってきま

した。子どもたちの好奇心や探索心を満たす遊びが経験できるよう一人ひとりの個性に合った保育活動を展開し、興味関心が膨らむように心がけて過ごしています。

人の育ちを植物に例えると、乳児期は根を伸ばす時期とされ、この時期に視覚、聴覚、触覚、臭覚、味覚の五感を発達させ感性豊かなものにしていくためには、人や自然と関わる体験をさせることが大切と学びました。「よくたべ、よくあそび、よくねむる」という子どもらしい生活を送りながら、生きる力の根をしっかりと伸ばしていけるよう、子どもたちと一緒に邁進していきます。



にじ組 (2歳児)
担任 野口 雅子

4月に開園し、2歳児の子どもたち、保護者、そしてクラスの先生との新たな出会いがあり、緊張漂う中で、男の子8人、女の子7人の「にじ組」がスタートしました。3人の保育士で担当して

いますが、日々、元気一杯の子どもたちに対し、保育者がどう関わっていくかを話し合い、互いの保育感や子ども一人ひとりに対する思いを理解し合い、それぞれの役割や関わり方を見出しながら保育に携わっています。

2歳児は自我が芽生え、中には自己主張が強くなって保育者の言うことを聞かなくなるなど、難しい時期でもあります。そういう子どもに対しては、チームワークを図り個別に丁寧に関わることで徐々に気持ちが落ち着くので、今では他クラスの先生からも「にじ組の子もたちはお利口だね」と褒められ嬉しそうに笑う姿が見られるようになりました。また、好奇心が旺盛なので、制作や集団遊び、プール遊び、外遊びなど、何にでも興味を示し挑戦しています。

特に制作では、クレヨン、折り紙、絵の具、はさみを使い、季節に合わせたものを楽しみながら作っているのも、その姿から子どもたちのワクワクした気持ちが伝わってきます。これからも、アイデアを出し合いながら、子どもたちの好奇心をかきたてるような制作を考えていきたいと思っています。

今後のクラス目標としては、来年の3歳児クラスに上がるために、自分の身の回りの事を自分でできるようにすることです。そのためのトライレレーニングを頑張り、成功を褒めて認めることで意欲を育てながら、保育活動を行っていききたいと思っています。



ほし組 (3歳児)
担任 山本 こずえ

3歳児クラスの「ほし組」は男の子7人、女の子9人、合計16人の元気いっぱい個性いっぱい仲良しクラスです。歌をつたったり、音楽に合わせてダンスを踊ったりすることが大好きで、毎日の朝の会では「〇〇の歌をうたいたい」「〇〇踊ろうよ」等と声を掛け合いながら楽しく過ごしています。開園当初は一人遊びが多かった子ども、現在ではクラス全体で鬼ごっこやいす取りゲーム等のルールのある遊びに挑戦したり、友達と一緒にままごとや電車の線路を繋げたりするようになり、遊びの幅も広が

ってきました。

子どもたちが集団生活をしていく中で、友達との関わりや基本的な生活習慣を身に付けていくことを意識して日々保育を行っています。また、保育者に頼っていたことも、子ども自身が少しずつ「やってみよう」と思えるよう、工夫して声掛けや援助を行っています。

子どもたちが「保育園が楽しい」と毎日笑顔で通ってもらえるように、保護者や他の保育者とも連携しながら、子どもの気持ちに寄り添い、関わっていききたいと思っています。



つき組（4歳児）
担任 大塚 愛里

様々なことに興味をもちはじめ、チャレンジしようとする4歳児クラスの「つき組」。男児7人、女児3人、合計10人の少人数クラスですが、子どもたちは「十人十色」と言われるように、個性豊かなクラスです。

保育では、子どもたちがたくさん経験ができるよう

当番活動や、生き物の飼育、

生態の発見、様々な素材を使った制作活動を取り入れています。7月には、田んぼでザリガニを捕まえ、脱皮する様子を観察するなど、自然豊かな環境の下で、子どもたちは伸び伸びとしています。

こうした活動経験を通して、生き物への興味や関心をもったり、新たな発見や友だちとの遊びの視野が広がることで相手の気持ちが考えられるようになったりと心身共に日々成長しています。

好奇心旺盛でたくさんの方の可能性を秘めている子どもたちには、自ら得意なことや好きなことを見つけ、新しい自分を発見していつてほしいと思っています。そのためにより多くの経験の場を提供し、興味をもつきっかけを作っていききたいです。



そら組（5歳児）
担任 村田 智奈美

5歳児クラスの「そら組」は、男児6人、女児9人、計15人の園児が在籍しています。進級当初、子どもたちは

新しい園舎での生活に期待

と不安が入り混じった様子でしたが、約半年が経った今では、保育室に子どもたちの元気な声が響き渡り、はじける笑顔がたくさん見られるようになりました。そして、

4月から共に過ごしてきた中で、年長ならではの行事などたくさんさんの事を経験し、子どもたちはひと回りもふた回りも大きく成長しました。

そら組の子どもたちは楽しいことが大好きです。遊びや制作活動、歌やダンスも楽しいと思える瞬間を見つけると表情が一変し、夢中で取り組む姿が見られます。その時の子どもたちの表情は、どんな姿よりも輝いています。私はこれからも、そんな子どもたちの表情をたくさん引き出していけるような保育を目指し、現状に満足することなく、日々努力していききたいと思っています。



フッ化物洗口を実施！！

8月4日、学童期を中心とした永久歯のむし歯予防対策として効果があるとされるフッ化物の利用を取り入れるため、指導員を招いて4歳児と5歳児を対象にフッ化物洗口（ブクブクうがい）の説明会を開催しました。

土浦市における幼児期から学童期にかけてのむし歯の数は、一人当たり1本で、全国平均の0.7本を上回っています。

むし歯予防の方法は、歯を磨くことが基本ですが、歯の溝に歯ブラシの毛先が届きにくいことなどから、磨き残しができてしまい、むし歯になりやすいと言われています。

フッ化物洗口は、簡単で費用が安く、一生使う6歳臼歯が生え始める時期に比較的高い効果が得られることから、国内外の専門機関が積極的に推奨しているものです。

フッ化物洗口をすることにより、いつまでも丈夫な歯で食事ができるように努めていきます。



さくら組（一時預り）
担任 藤澤 春美

さくら組は「一時預かり」のクラスです。現在、定期利用（非定型的保育サービス）の3人（2歳〜3歳）が利用

しています。毎日の利用でないこともあって、利用を始めた頃は、保護者と離れる時に泣いてた子どもたちも、最近では笑顔で手を振って離れられるようになりました。これからも、保護者と子どもたちが安心して笑顔で利用できるように、保育者自身も笑顔を忘れずに楽しく関わっていききたいと思っています。

お楽しみ会

6月25日

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年、旧桜川保育所で行っていた行事を引き継ぐこととなった「桜川保育園まつり」を中止し、それに代わる行事として「お楽しみ会」を6月25日に開催しました。新しい桜川保育園になってからは、はじめての大きな行事となり、保育者もお揃いのユニフォームを着て、子どもたちみんなに楽しんでもらえるようにと気合いが入りました。それぞれのコーナーの様子を紹介します。

【バルーンアートコーナー】

形に変身していく様子に目をキラキラさせていました。

施設長をはじめ保育者によるバルーンアートを子どもたちの前で作りました。

「いぬ」「きりん」「ねずみ」「はくちよう」「刀」など、細長い風船がさまざまな



【ヨーヨー釣りコーナー】

大きなビニールプールの中に入ったたくさんのヨーヨーを魚釣りのように棒で釣り上げるもので、自分の好きなキャラクターヨーヨーを見つけると、釣り上げるのに夢中になっていました。

また、3、4歳児の子どもたちによる、大きな手作り看板もお楽しみ会の雰囲気盛り上げてくれました。

【くじ引きコーナー】

保育者の手作り箱に景品を入れ、子どもたちには見えないよう設置しました。



隠された景品を0〜2歳児は紐を引っ張り、3〜5歳児は箱の中に手を入れながら、何が出てくるかとワクワクした様子で楽しんでいました。

【ボウリングコーナー】

ペットボトルに自由に絵を描いてボウリングのピンを作りました。段ボールで作った手作りレーンも登場しました。

5歳児の子どもたちがボウリングコーナーを担当し、0〜4歳児の子どもたちに声を掛けながらボールを渡したり、たくさん倒れるように応援したり、優しい気持ちをもって笑顔で接していました。

異年齢の子どもたちが関

わる姿はとても微笑ましいものでした。

楽しい時間は、アツという間に過ぎ、子どもたちの喜ぶ笑顔が、保育者にとって何よ

夕涼み会

7月21日

7月21日、そら組（5歳児）の子どもたちによる「夕涼み会」を開催しました。

名札やランチコンマットを作ったり、肝試しを盛り上げるために、前もって『おぼけ』と手紙のやり取りを楽しんだりしたので、ワクワク感や恐怖感で気持ちがたいへん高ぶっている様子でした。当日は、食材の買い物、力

り嬉しいものとなりました。これからも、子供たちが様々な経験をできるように、楽しい行事を考えていきたいと思っています。

レーやフルーチ作り、宝探し、肝試しなど、夕涼み会ならではの活動を楽しみました。また、全員がそれぞれ担当のリーダーとなったことにより、普段と違う凛々しい姿を見ることができました。最後は保護者と一緒に手持ち花火をするなど、みんなでたくさん思い出をつくることができました。

